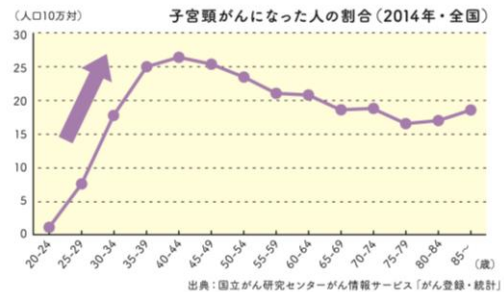
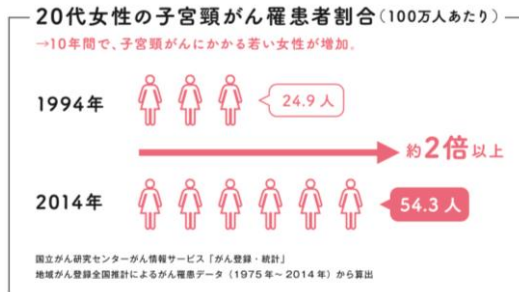


子宮頸がんについて

【20代女性で子宮頸がんが診断される人が急増】

10年前と比較し、子宮頸がんが診断される20代女性が急増しています。子宮頸がんの罹患率は特に20歳代後半から増加し始め、30歳代後半～40歳代でピークを迎えるため、若いうちから検診を受け続けることが重要です。



【初期段階での発見で、5年生存率が90%以上に】

初期の子宮頸がんは、多くは自覚症状がありません。そのため、「子宮頸がんにかかっている」と自分で気が付くことは困難です。しかし、検診で早期に発見できれば、そのほとんどが治癒することが分かっています。

発見時の進行度に応じた5年生存率

… ステージⅠ期の場合 92.4% / ステージⅣ期の場合 19.5%

【発見時の進行度に応じた5年生存率】

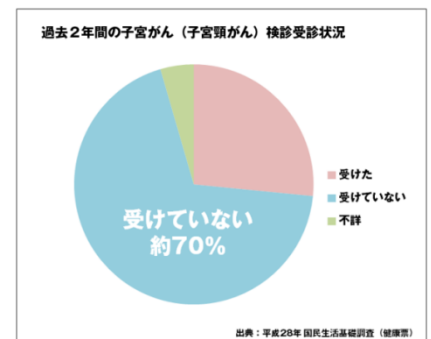


「ステージ」とはがんの進行度を表し、Ⅰ期(初期)からⅣ期(末期)に分類されています。

出典：国立がん研究センターがん情報サービス (2016年2月集計)

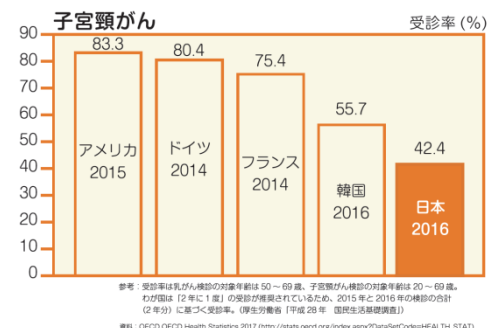
【20～29歳の女性の7割は早期発見に繋がる検診を受けていない】

国や都では、子宮頸がん検診を20歳から2年に1回受診するよう呼びかけを行っていますが、20～29歳の女性の7割は定期的に検診を受けていないことが分かっています。



【世界の主要国よりも低い、日本の検診受診率】

日本での検診受診率が低い一方で、韓国では55%、ドイツやアメリカでは80%以上の人が子宮頸がん検診を受診しています。世界と比較しても、日本では「検診を受けられるのに、受けていない人」が多いことが伺えます。



【検診が受けられる場所】

子宮頸がん検診を定期的に受診して、早期発見を心がけることが大切です。

子宮頸がん検診は以下の場所で受診可能です。

○お住まいの区市町村が実施する住民検診

実施場所や日時については、お住まいの区市町村がん検診担当部署にお問い合わせください。

お問い合わせ先は、とうきょう健康ステーションHP (<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kensui/gan/contact/index.html>) でご確認いただけます。

○職場での検診(実施の有無については、職場にご確認ください。)

○人間ドックなど